

# 「歴史総合」の理念を実現する IB 型学習指導案の提案 —「本質的な問い」を議論する単元「ナチズム」を通して—

佐井木 敬裕（国際教育コース）

本稿は、高等学校第 1 学年「歴史総合」で IB 型学習指導案に基づいた「ナチズム」学習を通して、生徒が歴史を学ぶ意義をどのように構築するかを検討するものである。歴史総合の理念の実現に向けて、御手洗・赤塚・井上（2023）による、IB 型学習指導案を基に、本質的な問いを軸として、生徒が多面的な視点から考察する単元を設計した。内容面では小野寺・田野（2023）を踏まえ、〈事実〉〈解釈〉〈意見〉の三層構造や三つの視点を意識した学習を実施した。OPP シートやアンケートから、生徒は歴史的事象を現代社会の課題に結びつけ、事実を多面的に捉える力や批判的に捉える力を養った。一方で、〈事実〉誤認や〈解釈〉の偏りが見られ、知識の伝達方法と情報の精選が課題となった。IB 型学習指導案を活用することで、歴史総合の課題である教育観の刷新を理想論に墮することなく無理のない範囲で図れることや生徒が歴史学習の意義を実感することが示唆された。

## 1 章 研究の背景と目的

本稿では、高等学校第 1 学年の「歴史総合」において、「ナチズム」を主題とする学習を通じて、生徒が歴史を学ぶ意義をいかに構築するかを検討する。2022 年度より実施の「歴史総合」の理念と実態に着目し、現代社会における教育や歴史をめぐる課題に応える歴史学習を実践する。

歴史総合は「近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成にかかわる近現代の歴史を考察、構想する」科目である（文部科学省、2018:123）。大きな特徴として、近現代史を「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」という 3 つの大きな変化に着目し、生徒が課題意識を持てるような主題や問いを設定し、概念などを活用しながら考察することが挙げられる。内容重視の科目ではなく、歴史の学び方を習得し、思考力育成を目指す科目といえる。中村（2021:85）は、歴史総合について、「主題学習を重視するものであり、なおかつ生徒と歴史教育との学習レバンスの構築—生徒が歴史を学ぶ意味・意義を構築すること—を志向している」と述べている。歴史総合の理念はまさにここにあり、大項目それぞれに「私たち」が付けられているわけである。

しかし、現場での実践状況を見れば、この理念の実現には多くの課題がある。高大連携歴史教育研究会（2024）『歴史総合の授業についての実態

調査』報告」のまとめには、以下のようにある。

「歴史総合」では教師による用語の「精選」が多く行われていることが明らかになった。しかし、その要因は単位不足や内容過多により、やむを得なく省略するものと、歴史総合は教科書を網羅する科目ではないと教育観に立ち、カリキュラム全体を見通しながら、進度を考慮し、内容を精選するものに大きく分別される。前者の場合、歴史の扉や「～への問い」「現代的な諸課題」は省略される可能性が高い。歴史総合の科目理念を達成するためには教師の教育観の刷新を行なっていく必要がある。しかし、単位不足や過積載問題が解消されない場合、教師の教育観の刷新は理想論と墮する可能性があるため、単位不足や過積載問題の解消は喫緊の課題である。

また、角田（2020）が、生徒が学ぶ意義を実感するには、学校の学びが学校外で価値をもつことを実感できるようにすることが必要であると述べるように、「社会に開かれた教育課程」を意識することが重要である。授業において、現代社会の諸問題を探究する力を養うことが求められている。

社会的背景をみると、歴史や政治をめぐるのは、流言や歴史修正主義の拡大という課題を抱えている。ハント（2019: I）は、「私たちは歴史に取り憑かれた時代を生きているのだ。しかし、現代はまた歴史的真理についての深い懸念が示される時代でもある」と述べる。こうした状況に対して、歴史教育はどのような学びを提供できるのかが問われている。歴史に関わる事実性を単に過去の出来事としてではなく<sup>1</sup>、現代の諸課題と結びつけ、未来を構想する力を養う学びが必要なのである。

以上を踏まえ、本稿では IB 型学習指導案に基づき、本質的な問いを議論し、考察する単元「ナチズム」を設計した。この単元を通じて、生徒が歴史にどのような意義を構築し、現代社会との関

連を考えるのかを明らかにする。

## 2章 授業構成の理論的枠組み

### 2-1 教育観のパラダイムシフト

先述したとおり、歴史総合の理念実現には教育観の転換が必要である。御手洗・赤塚・井上(2023)は、2017・18年学習指導要領改訂の背景には、コンピテンシー・ベースの教育や、学術的知見を踏まえた教育への移行が意図されていると指摘する。これまでの認知主義に基づく教授的な学習観・知識観から、現在では構成主義の考え方が主流になっている。現行学習指導要領では、こうした学術的知見に基づいた改革がなされた（【表1】）。

【表1：教育観のパラダイムシフト】

|            | 認知主義に基づく<br>教育観（従来型）   | 構成主義に基づく<br>教育観   |
|------------|------------------------|-------------------|
| 学習の<br>特徴  | 学校化された学習               | 真正な学習             |
| 学習の<br>傾向  | 暗記中心の学習                | 経験による学習           |
| 学習の<br>主体  | 教師中心                   | 学習者中心             |
| 学習の<br>知識観 | 知識は<br>与えられるもの         | 知識は<br>自ら構成するもの   |
| 評価の<br>方法  | ある時点でのテスト<br>による客観的な評価 | 継続的な<br>パフォーマンス評価 |

（御手洗ら（2023、10頁）の表1-2（森本，2008をもとに作成）より引用）

歴史教育においても、すでに認知主義からの脱却をはかって、多様な研究、実践が蓄積されてきている。渡部（2019）によると日本の歴史教育は実証主義・実用主義・構成主義に基づく授業に大別される。実証主義は、歴史学の研究自体を学習することが目的で、歴史研究の成果を正確に伝えるような教授主義的な授業になる傾向がある。実用主義は「現代社会の理解や判断のための手段として」歴史を学習する「社会科歴史教育」という考え方である。そして構成主義は、教育を通した歴史研究の実践を重視し、人々が歴史学者と同じ「歴史的思考」を身に付けることが重視される。この歴史的思考は、現行学習指導要領でいわれている「歴史的な見方・考え方」に通じるものであり、歴史を学ぶ本質的な意義である。つまり歴史学者のような歴史を見る目を養い、「歴史の学び方」を習得することが構成主義的な学習観に基づくものであり、現行学習指導要領がその考えに依っていることの証左でもある<sup>2</sup>。

渡部（2019）は高校での歴史教育を改善する鍵

は、学ぶ側である生徒のニーズに応え、より生徒が学習する意義を感じられる実用主義にあるという。歴史教育の現状としては、受験対策のため、実証主義的な教授スタイルの授業が主流となっているが、近年では、構成主義にもとづく知識構成型ジグソー法の実践（武井、2024 など）が注目を集めている。本来の教育の目的や歴史総合の実践上の課題を踏まえると、生徒が学習の主体となり、学習する意義をイメージしやすい構成主義や実用主義の立場に基づいた授業スタイルは有効である。

しかしながら、構成主義では、証拠を自分で追及しない、どのような歴史解釈もありえる「相対主義な歴史観」に陥る可能性がある。実用主義では、歴史的文脈を無視した「現在主義」に注意する必要がある。どの立場に拠っても課題はある。

教室の中だけでの学びに終わらせない、実用主義の立場から学習者視点にたって授業を改善することは必要である。しかし「歴史の学び方を習得する」という歴史総合の目的を踏まえると、やはり学問的誠実性を担保することも必要なのである。

### 2-2 なぜ国際バカロレア教育に学ぶのか

先述した歴史総合の課題、すなわち教育観を転換するためには国際バカロレア（International Baccalaureate: 以下、IB）教育が手掛かりとなる。

御手洗ら（2023）は、現行学習指導要領の背景にある、コンピテンシー・ベースや学術的知見を踏まえた教育が、IBで行われていると指摘する。

IBのプログラムには、教育理念、つまりコンピテンシーを育成するために、目標となる姿（態度・価値観含む）の明確化や4つのプログラムに通底するATT（Approaches to Teaching：指導の方法）とATL（Approaches to Learning：学習の方法）などのさまざまな工夫がある。また、そうしたIBプログラムを支える学術的知見として①「逆向き設計論」と、②主にPYP（Primary Years Programme：3～12歳）・MYP（Middle Years Programme：11～16歳）プログラムで見られる「概念型カリキュラムと指導」の2点がある。実社会とのつながり、学習者中心の学びへの転換を意識し、探究のために重視される「問い」や「概念」、経験学習とリフレクションといった特徴がある。

「歴史的な見方・考え方」を働かせ、概念の活

用、問いの追究を通して、考察や構想を促す歴史総合の学びに、IB の考え方を援用することは十分な意義がある。

そこで、以下において御手洗ら（2023）の論考をもとにして、IB の考え方を取り入れた学習指導を社会科教育において構想し、歴史総合の課題の克服について考える。

## 2-2-1 IB プログラムにおける諸理論

IB 型の学習指導案に触れる前に、現在の IB プログラムを支える学術的知見について確認したい。

### ①「逆向き設計論」

「逆向き設計論」は、ウィギンズら（2012）が、提唱するカリキュラム設計論である。基本的に「求められている結果を明確に設定し」、「承認できる証拠を決定し」、「学習経験と指導を計画する」という3段階で学習を計画する。重要な点は、教育目標として掲げられているコンピテンシーをゴールとしても明確化し、確実に身に付けることであるという。

そして、学習者が物事を本質的に深く理解し、実生活・実社会にも学びを転移することができるよう導くために、「看破」（深く掘り下げ、隠れていた何かの中に重要なものを発見すること）を重視する。しかし、深い理解への到達は容易ではないため、IB では「概念型カリキュラムと指導」を有効な手立てとして用いている。

### ②「概念型カリキュラムと指導」

「概念型カリキュラムと指導」は、エリクソンら（2020）が提唱するカリキュラム設計論である。エリクソンら（2020:155）は、概念を「共通の特質を持つ一連の例に枠組みを与える思考の構築物（mental construct）」と説明している。

エリクソンらは、学習者自らが思考を働かせ、一般化、すなわち、物事の本質へたどり着くことを重視し、帰納的アプローチを採用する。

また、単元において概念の転移を強化し、相乗的な思考（低次の思考【事実スキル】と高次の思考【概念】の相乗作用による思考）を重視し、それを働かせるための概念を「概念レンズ」と呼ぶ。

概念型学習の実現には、3つの問いが重要であると指摘されている。本研究で扱った「ナチズム」の単元を例にすると、以下のようになる。

- ・ 事実にに関する問い  
例：ナチ党は「民族共同体」の理念をどのように国民に広め、実現しようとしたのか。
- ・ 概念に関する問い  
例：排除を伴う共同体形成は、なぜ強い支持を得ることがあるのか。
- ・ 議論を喚起する問い  
例：排他的性質は、共同体形成において必然的な要素か。それとも別のアプローチが可能か。

## 2-2-2 IB 型学習指導案

IB の目標や評価、指導方法などをそのまま活用することは、学習指導要領に準拠する日本では適さないところもあるため、御手洗ら（2023）は、日本の学校でも使用できるように「IB のエッセンスを取り入れた指導案」（本稿では「IB 型学習指導案」）を開発している。IB 型学習指導案では、資質・能力の3つの柱を意識して、一貫した目標・指導・評価を計画している。以下では、御手洗ら（2023）の論考をⅠ：目標・課題設定編、Ⅱ：指導・評価編、Ⅲ・Ⅳ：活動（全体・本時）編で簡潔に確認していく。

### Ⅰ：目標・課題設定編 【図1 ⅠⅡ編】

主な提案・指摘としては、以下の3点である。

- ①到達すべき目標から遡った目標の設定
- ②資質・能力の三つの柱を踏まえた学習者観の設定
- ③「単元の概念」と「単元の核をなす本質的な問い」の設定

一般的な日本の学習指導案における「目標・課題」の設定には、①学習者の課題をどう特定するのか、②育成したい資質・能力をどう具体的に明示するのか、③実生活・実社会とのつながりをどう可視化するのか、という3つの課題があると指摘している。それらの改善に向けて、①②については「逆向き設計論」に基づいて、③については思考を深め、学習の転移を起こす方法として、ウィギンズらの「本質的な問い」とエリクソンらの「概念レンズ」を参考にすることを提案している。

ウィギンズらによると、「本質的な問い」とは、物事のそもそも・根源に迫れるような問いのことをいい、条件は以下の通りである。

- ・ オープン・エンドであること（答えが一つではなく、正解か不正解かで判断できない問い）
- ・ 色々と考えさせられ、思考を刺激されるもの
- ・ 分析したり、類推したり、評価したりといった高次の思考力が要求されるもの
- ・ 問いにより導き出される答え（アイデア）が他の場面でも活用・転用できるもの
- ・ さらに問いを生み出し、探究につながっていくもの
- ・ 答えに理由づけが必要になってくるもの
- ・ 何度問いに立ち戻っても、思考が繰り返されるもの

### Ⅱ：指導・評価編 【図1 ⅠⅡ編】

主な提案・指摘としては、以下の5点である。

- ①カリキュラム全体に通底する指導観の必要性
- ②教科固有の見方・考え方や転移可能な見方・考え方の設定
- ③見方・考え方を育成する評価の設定に当たって、評価を行う目的として、生徒が成長を実感できるようにすること、生徒が次の学習につなげられるように支援することの二点の重要性
- ④学習活動と評価の一体化のための評価づけの方法（学びを充実するための形成的評価と学びの結果として成績づけに重点を置いた統括的評価）
- ⑤多面的・多角的な見方の評価に有効なルーブリックを用いた評価

上記を踏まえ、どのようにすれば指導が充実するのか、指導によって学習者の主体的な学びにどの程度結実していくのかを検討することを指摘している。また、本編では、IBに通底する指導の方法と学習の方法を参考にした改善を提案している。

### III・IV：活動（全体・本時）編 【図1 III編】

主な提案・指摘としては以下の6点である。

- ①学習目標の設定
- ②発問・問い、想定回答の設定
- ③評価方法の設定
- ④学習活動の設定
- ⑤学習者間の学びを駆動する問いかけ
- ⑥ウィギンズらの7つの指導技術

①～④は、単元に身に付けさせたい最終的な結果から遡った指導案の設計、つまり「逆向き設計論」に基づいた計画、⑤、⑥は発問・問いを中心とした単元の組み立て方という2つの課題への改善として提案している。⑥は生徒の応答を待つやThink-Pair-Shareを取り入れるなど、問いを中心とする授業進行に際しての留意点が示されている。

### 2-3 社会科における概念と本質的な問い

では、IBプログラムの諸理論やIB型学習指導案は日本の社会科教育とどのような関係があるといえるのだろうか。日本における社会科は「社会認識形成を通して市民的資質を育成する」教科として、育成をめざす市民的資質（社会科における学力像）は、【図2】のように説明される。

森分（1978・2001）は、科学的知識を特定の事象に関する事実的知識と汎用性のある概念・法則等に関わる説明的知識とに分け、そうした事実等を踏まえた価値的知識によって、市民的資質は形成されるという。森分（1978）は、社会科のねらいを「社会的事象・出来事を科学的に説明できるようにさせる」とし、教師が「なぜ」や「どうなるか」と問うことで、科学的な概念・法則の理解、学習を生徒が探求する過程を重視した（科学的探求学習）。「なぜ」と問うことは、説明的知

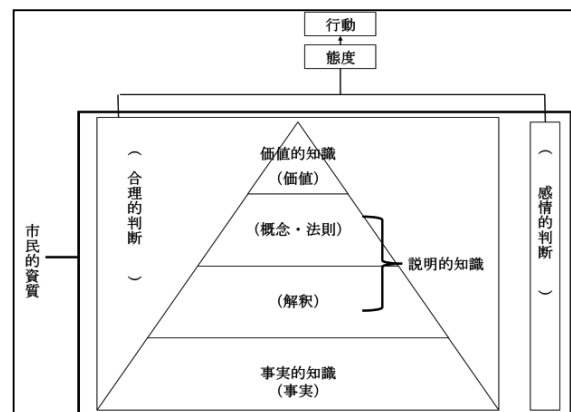
| I II編      |                                      |               |               |              |
|------------|--------------------------------------|---------------|---------------|--------------|
| 学習者中心の課題設定 |                                      |               |               |              |
| 到達目標       | 【学習指導要領上の科目目標／年間指導計画上の目標】            |               |               |              |
| 目標         | 【建学の理念／自治体／学年／個人の理想の学習者像】            |               |               |              |
|            | ↓目標からの落差としての課題                       |               |               |              |
| 学習者観       | 知識・技能:                               |               |               |              |
|            | 思考・判断・表現:                            |               |               |              |
|            | 主体的に学習に取り組む態度:                       |               |               |              |
|            | +                                    |               |               |              |
| 単元目標       | 知識・技能:                               |               |               |              |
|            | 思考・判断・表現:                            |               |               |              |
|            | 主体的に学習に取り組む態度:                       |               |               |              |
|            | ↓学習者中心の課題設定と単元観を踏まえて                 |               |               |              |
| 指導観        | 知識・技能:                               |               |               |              |
|            | 思考・判断・表現:                            |               |               |              |
|            | 主体的に学習に取り組む態度:                       |               |               |              |
|            | 【単元の概念】 【単元の核をなす本質的な問い】              |               |               |              |
|            | ↓単元目標を達成するためには(指導観へ)                 |               |               |              |
|            | 知識・技能:                               |               |               |              |
|            | 思考・判断・表現:                            |               |               |              |
|            | 主体的に学習に取り組む態度:                       |               |               |              |
|            | 指導観を踏まえた評価の観点 ↓ 評価の観点から指導観を見直す       |               |               |              |
|            | 知識・技能                                | 思考・判断・表現      |               |              |
|            | 【転移可能な見方・考え方】                        | 【転移可能な見方・考え方】 |               |              |
|            | 【教材固有の見方・考え方】                        | 【教材固有の見方・考え方】 |               |              |
|            | 主体的に学習に取り組む態度                        |               |               |              |
| 評価の観点      | 【学習の方法(Approaches to Learning: ATL)】 |               |               |              |
|            | 思考スキル                                | リサーチスキル       | コミュニケーションスキル  | 社会性スキル       |
|            | 自己管理スキル                              |               |               |              |
|            | □記憶する                                | □情報リテラシー      | □話す・聞く        | □協働する        |
|            | □理解する                                | □読む           | □共感する         | □整理・整頓する     |
|            | □応用する                                | □メディアリテラシー    | □書く           | □責任をもつ       |
|            | □分析する                                | □学習の誠実性       | □伝える          | □感情をコントロールする |
|            | □創造する                                | □要約する         | □リーダーシップを発揮する | □立ち直る        |
|            |                                      | □ツールを活用する     | □主張する         | □自己を動機づける    |
|            | 【形成的評価】                              |               |               |              |
|            | 【総括的評価】                              |               |               |              |

| III編 |         |       |          |      |
|------|---------|-------|----------|------|
| 時間   | 各時間における |       | 評価の内容と方法 | 学習活動 |
|      | 目標      | 問い・発問 |          |      |
| 1    | →       |       |          |      |

【図1：IB型学習指導案】

（御手洗ら（2023）を参照し筆者作成）



【図2：社会科における学力像】

（森分（2001）・角田（2022）を参照し筆者作成）

識なしに答えることはできない。この科学的探求学習は、構造化された知識群＝「知識の構造図」と構造化された問い＝「問いの構造図」によって

支えられる。「知識の構造図」に基づき授業を設計し、「問いの構造図」、授業で教えたい知識を生徒の頭の中に埋め込むための手続きである。特に「知識の構造図」は、社会科の授業の構造を分析するのに活用されてきた。

渡部（2020）は、森分の科学的探求学習を概念・法則に着目し、知識のみならず（結果として知識偏重の学習となったが）、技能や情意の育成にも及ぶ授業と評価している。渡部は、森分の理論を継承しつつ、生徒の自然な思考過程を保障するために、「問いの構造図」に基づき授業設計し、後から「本質的な問い」を設定することによる科学的探求学習を提唱した。渡部の「問いの構造図」は、中心発問（MQ）＝「なぜ」「どうして」の推論を求める問いとその答えを導く下位の問い（SQ）やさらに下位の問い（SSQ）を体系的に構成したものである。そして、最後に「本質的な問い」を後づけで設定することによって完成する。

渡部は、ウィギンズらやそれに基づく日本での実践を踏まえ、本質的な問いの設定には、平和で民主的な社会の進展や生徒の生活向上に直結していること、社会科カリキュラム全体を通して、複数事例で考察できることを考慮する必要があるという<sup>3</sup>。そこで渡部は本質的な問いを以下のように定義している。

はっきりとした解答はないオープンエンドな問いで、かつ主権者として、市民として、私たちが社会で生きていくために考えていかなければならないような性質の問いのこと

これによって、過去自体を知ることを目とした科学的探求学習ではなく、現在に生きる生徒が「学ぶ意味」を実感し、通史学習の枠内で実行のできる授業を生み出すことにつながるとしている。

以上、社会科教育における学力、概念や問いについてみてきた。こうした研究を踏まえると、IBの考え方を取り入れることは、社会科教育の志向するものと矛盾しない。むしろ、IB 型学習指導案という型によって、説明的知識としての見方・考え方を育むことや問いによる深い学び、市民的資質をより明確化することが可能となる。次章では IB 型学習指導案という 1 つの型からの単元を構想する。その実践において生徒が歴史学習をいかに意義づけるのかについて検証する。

### 3 章 授業実践の構想と概要

#### 3-1 実践校における歴史総合—学習者観

実践校は、大学附属の中高一貫校でクラスは中学校からの内部生と高等学校からの入学生によって構成されている。実践校の歴史総合は、4～5 時間程度の単元で、各時間の問いに関する考察を重ね、単元終了後には単元を貫く問いに関するレポート（400 字程度）と単元テストを実施している。普段の授業は、知識の習得のみならず、グループ活動を取り入れ、多様な形式で進めているため生徒は意見の交換や議論をすることには慣れている。

特筆すべきことは 2 点ある。1 点目は大項目 B・C 中項目（1）「問いの表現」を単元ごとに実施し、問いの作り方についても指導している点である。本来、大項目冒頭で実施する「問いの表現」を各単元で実施することで、問いと学習内容の関連を、より生徒は意識しやすくなり、授業者も問いと学習内容のつながりを改善し、柔軟な指導に活かすことが可能となる。2 点目は単元ごとに OPPA（One Page Portfolio Assessment：一枚ポートフォリオ評価）を導入している点である<sup>4</sup>。OPPA は、生徒が単元での学びを可視化し、振り返るためのツールとして有効である。授業者にとっても、生徒の学びの過程を把握することで、授業改善の手がかりとなる。

次節以降詳述する「ナチズム」実践は、C 第一次世界大戦と大衆化の単元テスト終了後、C（3）経済危機と第二次世界大戦における 1 単元（時数全 4 時間）分として 10 月に行った（【表 2】は実践校における歴史総合の本実践までの単元概要）。

【表 2：実践校における歴史総合】

| 大項目               | 時数 | （中項目）主な内容                 |
|-------------------|----|---------------------------|
| A 歴史の扉            | 3  | ガイダンス（1）時間規律<br>（2）歴史と史資料 |
| B 近代化と私たち         | 5  | （1）（2）工業化→単元テスト           |
|                   | 5  | （1）（3）国民国家→単元テスト          |
|                   | 2  | （3）帝国主義                   |
|                   | 2  | （4）近代化と現代的な諸課題            |
| C 国際秩序の変化や大衆化と私たち | 8  | （1）（2）第一次世界大戦と大衆化→単元テスト   |

#### 3-2 「ナチズム」をめぐって—単元・指導観

本節では、具体的な指導計画を考える前に、本稿での学習上の課題として設定した主題「ナチズ

ム」に関して論じる。

### 3-2-1 「ナチズム」を学校教育において取り上げることの意義

「ナチズム」(Nationalsozialismus) とは、「国民社会主義」と訳され、国民・民族を優先する思想である(石田、2015)。一般にナチスの政治思想や政治体制、大衆運動を意味する語であり、ファシズムの代表的事例として扱われる<sup>5</sup>。

様々な書籍や SNS において、「ナチスは良いこともした」や「ホロコーストはなかった」という言説がたびたび繰り返されている(小野寺・田野、2023)。流言や歴史修正主義が広がる現代社会では、「ナチズム」を教育で扱うことの重要性は増しているといえる。佐藤(2015)は、日本において「ナチズム」は、マスメディアを中心にサブカルチャーの1つ、「ナチカル」として消費されてきたと指摘する。ジャーナリズムや小説、映画など多岐にわたる。しかし、グローバル化や SNS の発達、歴史認識の重要性を考慮すると、もはやナチカルを許容することは難しい。検閲も制限もなしに、情報発信できる現代は、生徒が誤った情報の発信や炎上などに巻き込まれる危険性がある。情報リテラシーを身に付ける手段としても「ナチズム」は効果的である。

また、「ナチズム」に関する認識についてもう1点考える必要がある。それはドイツ敗戦後、1948年の西側地区での世論調査である。「ナチズム」は良い理念だが実行の仕方が悪かったという意見に約6割の人が賛同し、指導者としてのヒトラーを肯定的に評価する意見は3割あった。この背景を理解することは、「ファシズム」の本質を考察する上で重要である。田野(2020:183)が「ファシズムを悪なるものとして否定するだけでは、多くの人びとがその魅力に惹きつけられ、歓呼・賛同しながら侵略と犯罪に加担していった歴史の教訓をいかすことにはならない」と指摘するように、包摂と排除の論理や大衆について考えることで、排外主義やポピュリズムの台頭などの現代社会における様々な問題への転移を促すことにつながる。

では、「歴史総合」における「ナチズム」の学習はどのように位置付けられるのかについて確認したい。学習指導要領においては「ナチズム」や「ナ

チス」といった表現はないが、「ナチズム」は「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」「(3) 経済危機と第二次世界大戦」に位置付けられる。この中項目では、世界恐慌や国際協調体制の動揺、第二次世界大戦の性格と惨禍などを考察し、日本を含む各国の動向を比較・関連付けながら、国際社会の変化を理解することがねらいである。

「ナチズム」の学習は、国際協調体制の動揺や第二次世界大戦を理解するための事例として適している。教訓を得たり、未だ尾を引く現代的な諸課題と向き合ったりすることのできる題材である。

### 3-2-2 「ナチズム」をどう授業するか—『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』の教材化

前説で取り上げたように「ナチズム」を歴史総合において取り上げることが、現代社会における歴史や政治を考える上で大きな意義がある。

本実践においては、小野寺・田野(2023)『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』を踏まえた授業を構想する。本書は、「ナチスは良いこともした」という言説において良いことや功績とされがちな事例(失業者対策や家族政策など)を検討したものである。本書においては、歴史的事実をめぐる〈事実〉〈解釈〉〈意見〉の三層構造や、歴史的経緯、歴史的文脈、歴史的結果という三つの視点から事例を検討している。

本書の活用は、歴史的事実を実証的に検証し、現代社会との関連性を探ることを可能とする。歴史を「学ぶ意義」を実感させるだけでなく、未来の社会を構想する力を育むことも可能となる。先述の三層構造や三つの視点は歴史的な見方・考え方でもあるといえ、これらを学ぶことは、「歴史の学び方の習得」という歴史総合の目的にも通じる。

### 3-3 単元の指導計画

本実践は、C 国際秩序の変化や大衆化と私たち(3) 経済危機と第二次世界大戦の1部として実施した。単元の指導・評価計画は【表3】(7頁)と【表4】(8頁)の通りである。

到達目標から学習者の課題を設定し、単元観、単元目標、指導観、評価の観点を決めた。具体的な実践概要については次節で詳述する。前節までの議論を踏まえて、本質的な問いを「なぜ」で設定するのではなく、現代的な視点から歴史を見る

【表 3：IB 型学習指導案 I 課題設定 II-1 指導・評価 II-2 ルーブリック 編】

| 学習者中心の課題設定                            |                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 到達目標                                  | 学習指導要領上の科目目標／年間指導計画上での目標                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。<br>建学の理念／自治体／学年／個人の理想の学習者像<br>平和と民主主義、自由と清新、批判的思考スキル・創造的思考スキル・コミュニケーションスキル・コラボレーションスキル                                   |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ↓目標からの落差としての課題                        |                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 学習者観                                  | 知識・技能：近現代の歴史と現代的な諸課題のつながりを理解していない。                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 思考・判断・表現：概念などを活用して多面的・多角的に考察する機会が少ない。                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 主体的に学習に取り組む態度：歴史的事象が自身と関わっているとは考えられず、歴史に関わる事実性を踏まえて意見を持つことができていない。                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| +                                     |                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 単元観                                   | 知識・技能：「ナチズム」に関する現在の言説から、歴史修正主義について扱える。                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 思考・判断・表現：「ナチズム」とはどのような体制か、議論の余地がある。                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 主体的に学習に取り組む態度：「ナチズム」に関わる言説から、偏った見方をするものの問題点について扱える。                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ↓学習者中心の課題設定と単元観を踏まえて                  |                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 単元目標                                  | 知識・技能：「ナチスは『良いこと』もした」という言説の問題点を理解する。                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 思考・判断・表現：「ナチズム」という概念を活用して、本質的な問いを考察する。                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 主体的に学習に取り組む態度：史資料や他者との対話を通じて、自分の意見を構成する。                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 【単元の概念】<br>視点                                                                                                                                                                                                                             | 【単元の核をなす本質的な問い】<br>「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言は、どの程度妥当か。                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ↓単元目標を達成するためには（指導観へ）                  |                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 指導観                                   | 知識・技能：『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか？』を踏まえて、具体例を提示する。                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 思考・判断・表現：「ナチズム」の核となる「民族共同体」という重要概念を示す。（史資料から考察する）                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 主体的に学習に取り組む態度：単元前・中・後で考えの変化を可視化するために、OPP シートを使用する。                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | <input checked="" type="checkbox"/> 探究を基盤とした指導<br><input checked="" type="checkbox"/> 概念理解に重点を置いた指導（教科横断的な学びの視点）<br><input checked="" type="checkbox"/> 地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導                                                        |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | <input checked="" type="checkbox"/> 効果的なチームワークと協働を重視する指導<br><input checked="" type="checkbox"/> すべての学習者のニーズを満たすために個別最適化した指導<br><input checked="" type="checkbox"/> 評価（形成的評価および総括的評価）を取り入れた指導                                              |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 指導観を踏まえた評価の観点 ↓      ↑ 評価の観点から指導観を見直す |                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 評価の観点                                 | 知識・技能                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                            | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 【転移可能な見方・考え方】<br>一面的な見方（Tunnelblick）に注意して議論することができるか。                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                            | 【転移可能な見方・考え方】<br>包摂と排除という論理から、権力・大衆のあり方について考えられるか。                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 【教材固有な見方・考え方】<br>「ナチスは『良いこと』もした」言説の問題点を理解しているか。                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                            | 【教材固有な見方・考え方】<br>「民族共同体」という重要概念から、「ナチズム」とはどのような体制か考えられるか。                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 主体的に学習に取り組む態度<br>・過去をどのようにみるのか、「現在主義」に陥らずに考えようと努めているか。<br>・本質的な問いに対する自分の意見を、史資料や他者との対話から深めているか。                                                                                                                                           |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 【学習の方法（Approaches to Learning：ATL）】                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 思考スキル                                                                                                                                                                                                                                     | リサーチスキル                                                                                                                                    | コミュニケーションスキル                                                                                                                                                                                                                                   | 社会性スキル                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                       | <input type="checkbox"/> 記憶する<br><input checked="" type="checkbox"/> 理解する<br><input checked="" type="checkbox"/> 応用する<br><input type="checkbox"/> 分析する<br><input type="checkbox"/> 創造する                                                   | <input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー<br><input checked="" type="checkbox"/> メディアリテラシー<br><input checked="" type="checkbox"/> 学問的誠実性 | <input checked="" type="checkbox"/> 話す・聞く<br><input checked="" type="checkbox"/> 読む<br><input checked="" type="checkbox"/> 書く<br><input checked="" type="checkbox"/> 伝える<br><input type="checkbox"/> 要約する<br><input type="checkbox"/> ツールを活用する | <input checked="" type="checkbox"/> 協働する<br><input type="checkbox"/> 共感する<br><input checked="" type="checkbox"/> 責任をもつ<br><input checked="" type="checkbox"/> 意思を決定する<br><input type="checkbox"/> リーダーシップを発揮する<br><input checked="" type="checkbox"/> 主張する |
|                                       | <input type="checkbox"/> 整理・整頓する<br><input checked="" type="checkbox"/> 時間を管理する<br><input checked="" type="checkbox"/> 感情をコントロールする<br><input type="checkbox"/> 立ち直る<br><input type="checkbox"/> 自己を動機づける<br><input type="checkbox"/> 計画する |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 【形成的評価】 OPP シートの記述から各時間での学びを振り返り、「ナチズム」について考察しているか。<br>【総括的評価】 ①本質的な問いに対する考えをレポートに書きルーブリック評価する。②到達度チェックの実施。                                                                                                                               |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | ※ルーブリック<br>実践校の実態を踏まえて観点を設定し簡易的なものを作成した。[知・技]一面的な見方をしていないか（＋論理的な文章構成か）。[思判表]概念を理解しているか。[主]自身の考えを再構成しているか。の三観点で S・A・B の尺度と基準を OPP シートの右下に提示した。<br>生徒に提示した最終的な評価は、観点別ではなく、合計として S：SSS・SSA、A：SAA・AAA・AAB、B：ABB・BBB の評価を提示した。                 |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                            |

（御手洗ら（2023）を参照し筆者作成）

【表4：IB型学習指導案Ⅲ活動（全体）編】

| 時 | 各時間における                                                                                                                                        |                                                                                                                                               | 評価の<br>内容と方法                                                                                                                                                                  | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                            |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | 目標                                                                                                                                             | 問い・発問                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本質的な問いを確認する（問いを再構成する）。</li> <li>・プロバガンダ資料からヒトラーやナチスに対するイメージをもつ。</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言は、どの程度妥当か。</li> <li>・資料の読み取りを通してどのようなことを考えたか。</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>[知・技]資料の読み取りを適切にしているか。</li> <li>[主]自分の考え、疑問・問いを表現しているか。</li> </ul>                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本質的な問いについての解説を聞き、単元前に問いに対して考える。</li> <li>・ナチスに関わる諸資料（ポスター、写真、演説の特徴語をまとめた表）をみて、個人・ペア・グループで情報を読み取り、興味・疑問・感想等をOPPシートに記述する。</li> </ul>                                                                      |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・『WEB・ニュース記事』ナチスに関して理解を深め、エキスパート資料を作成する。</li> <li>・『「ナチスは良いこととした」という発言にどのように向き合うのか』を考え、議論する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ナチスは良いこととした」という発言に対してどう向き合うのか。</li> <li>・「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言は、どの程度妥当か。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>[思判表]主張を批判的に捉えているか。</li> <li>[主]自分の考え、疑問・問いを表現しているか。</li> </ul>                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・9グループに分かれ、『WEB・ニュース記事』『この事例を知ったうえでナチスについて検討』『「ナチスは良いこととした」という発言に対してどう向き合うのか』『本質的な問いに対するメモ』の4点を調査し、議論・検討する。</li> <li>・各グループからの報告、授業者からの補足を聞いて、本質的な問いについて考える。</li> <li>・興味・疑問・感想等をOPPシートに記述する。</li> </ul> |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパート資料を基に発表する。</li> <li>・各グループの報告・解説を聞いて、本質的な問いについて考える。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言は、どの程度妥当か。</li> </ul>                                                          |                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナチズム・民族共同体について理解する。</li> <li>・ナチスは「良いこととした」という発言の問題点を理解する。</li> <li>・本質的な問いについて考える。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3 時間目を踏まえ問いを設定する。</li> <li>・ナチスは「良いこと」もしたのか。</li> <li>・「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言は、どの程度妥当か。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>[知・技]「ナチスは『良いこと』もした」という発言の問題点を理解しているか。</li> <li>[主]自分の考え、疑問・問いを表現しているか。</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3 時間目までのOPPシートにある疑問・問いを踏まえて問いを設定し、その問いを考察する。</li> <li>・ナチスは「良いこと」もしたのか。について考察する。</li> <li>・本質的な問いについて考える。</li> <li>・興味・疑問・感想等をOPPシートに記述する。</li> </ul>                                                 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を踏まえて本質的な問いについて根拠をもって考える。</li> </ul>                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>【単元の核をなす本質的な問い】「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言は、どの程度妥当か。</li> </ul>                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>[知・技]「ナチスは『良いこと』もした」という言説の問題点を理解している。</li> <li>[思判表]「ナチズム」という概念を活用して本質的な問いを考察している。</li> <li>[主]史資料や他者との対話を通じて自分の意見を再構成している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～4 時間目の内容を踏まえて、本質的な問いに対する自身の考えをOPPシートに記述する。[レポート]</li> </ul>                                                                                                                                           |

（御手洗ら（2023）を参照し筆者作成）

際の注意点や現代における言説、歴史の学び方を習得できるような議論を喚起する問いを設定することが望ましいと考えた。そのため、副教材として活用する小野寺・田野（2023）を踏まえて、本質的な問いに『「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言はどの程度妥当か』を設定した。

「歴史に善悪を持ち込むか否か」については、小野寺・田野（2023）が指摘している通り、学問的にはバイアスを排除する必要性があることと矛盾するように思えるが、完全に価値中立な歴史叙述は不可能である。むしろ、価値判断を意識的に問い直し、その基準や社会的影響を批判的に検討することが重要である。このような歴史学の過去との向き合い方を踏まえ、生徒には、どのように

歴史と向き合うのか〈意見〉の段階で考えさせる。歴史学者ではない個人として、歴史的事実を理解し、現代社会に対して自分の立場を形成する力を育むことにつながると考えられる。

そして、「どの程度」と問うことで、単純な善悪の線引きを超えて、文脈や背景など、多面的な考察を促す。歴史学者によって明らかにされた歴史的事実に対する〈解釈〉〈意見〉を形成する機会になる。「ナチスの政策には良い面もあった」といった主張に対し、その背景や意図、社会的影響を検討することを通じて、生徒は「良い面」といわれる政策に潜む排他的な要素や人権侵害といった問題を理解する。つまり、歴史を単なる事実として消費するのではなく、〈事実〉に基づいた〈解釈〉

を通して、現代社会の問題や自身の立場を〈意見〉する力を育む。「善悪の判断は時代や文化によって異なる」という一見正当な主張も、歴史的文脈や意図を無視した〈解釈〉では危険性をはらむ。このような視点を学ぶことは、歴史教育の現代的意義を生徒に実感させるものになる。

単元概念としては、「視点」を設定した。先述した、善悪を巡る多面性、過去・現在・未来という時間軸、歴史的文脈などを通して、「視点」を意識させ、教科固有ではない「視点」へと概念化できると考えたからである。

評価に関しては、【表 3】の評価の観点に提示しているように、OPP シートと単元後レポートを材料として簡易的なルーブリック評価を行う。ATL は、単元を通してリサーチスキルを意識する。ATL を意識することで、資質・能力を明確化し、一貫した指導が可能となる。ATL は、2－3 で指摘したような社会科において育成する市民的資質を定式化する上でも参考になる。OPPA を本実践でも取り入れたが、本質的な問いを各時間で思考し、自身の学びを振り返られるよう【図 3】の形にした。

| 歴史総合 3 国際秩序の変化や大衆化と私たち 2 ナチズム 単元カード                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                        |                |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----------------|----------|--|--|----|---|-----|-----|---------|---------|----|----------------------|------------|------|--------------|----------------|
| ◎単元の学習前：「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言はどの程度妥当か。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                        |                |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
| ①導入<br>【授業の感想・大事だと思ったこと】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ●疑問・知りたいこと<br>【自己評価】<br>A：よく理解できた<br>B：理解できた<br>C：もう少し | フリースペース        |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
| ①発表準備をして<br>【授業の感想・大事だと思ったこと】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | ●疑問・知りたいこと<br>【自己評価】<br>A：よく理解できた<br>B：理解できた<br>C：もう少し | フリースペース        |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
| ②報告/コメントを聞いて<br>【授業の感想・大事だと思ったこと】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | ●疑問・知りたいこと<br>【自己評価】<br>A：よく理解できた<br>B：理解できた<br>C：もう少し | フリースペース        |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
| ③ナチスは「良いこと」もしたのか？<br>【授業の感想・大事だと思ったこと】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | ●疑問・知りたいこと<br>【自己評価】<br>A：よく理解できた<br>B：理解できた<br>C：もう少し | フリースペース        |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
| ◎単元の学習後：「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言はどの程度妥当か。200字程度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                        |                |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">評価ルーブリック</th> </tr> <tr> <th>得点</th> <th>S</th> <th>A B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論理性</td> <td>筋が通っている</td> <td>論理性に欠ける</td> </tr> <tr> <td>概念</td> <td>ナチズム、民族共同体について理解している</td> <td>概念を理解していない</td> </tr> <tr> <td>振り返り</td> <td>授業の学びを活かしている</td> <td>授業での学びを活かしていない</td> </tr> </tbody> </table> |                                                        |                | 評価ルーブリック |  |  | 得点 | S | A B | 論理性 | 筋が通っている | 論理性に欠ける | 概念 | ナチズム、民族共同体について理解している | 概念を理解していない | 振り返り | 授業の学びを活かしている | 授業での学びを活かしていない |
| 評価ルーブリック                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                        |                |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
| 得点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | S                                                      | A B            |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
| 論理性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 筋が通っている                                                | 論理性に欠ける        |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
| 概念                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ナチズム、民族共同体について理解している                                   | 概念を理解していない     |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |
| 振り返り                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 授業の学びを活かしている                                           | 授業での学びを活かしていない |          |  |  |    |   |     |     |         |         |    |                      |            |      |              |                |

【図 3：OPP シート】

### 3－4 実践概要

#### 【1 時間目】

本時では、「自分の車を運転したければ週 5 マルク貯金せよ」のポスターや「総統は笑うこともある」のキャプション付き写真、少女と交流するヒトラーの絵葉書、ヒトラー演説 150 万語データ分析（ナチ党前半期と後半期の特徴語（名詞）（『ヒトラー演説』162 頁、表 5 より引用））など、基本的にはプロパガンダとして利用された資料を読み取った。個人・ペア・グループで読み取り、興味・関心、疑問に思ったことを OPP シートに記述した。本時は(1)問いの表現として位置付けられる。

#### 【2・3 時間目】

【2・3 時間目】では 4 人グループを基本として、【2 時間目】に発表資料を作成し、【3 時間目】に発表する活動を行った。グループには『WEB・ニュース記事』を題材にし、各テーマの発表内容を深めさせた。以下は、各グループの『WEB・ニュース記事』で扱った記事の見出しである。

- ①ホロコースト：「ユダヤ人大量惨殺ごっこ」五輪開会式ディレクターの小林賢太郎氏、芸人時代にホロコーストを笑いのネタに 2021 年
- ②ナチス風衣装・ナチカル：櫛坂 46「ナチス風衣装」の世界的炎上、いったい何が問題なのか？ 2016 年
- ③ナチス式敬礼：独議事堂前でナチス敬礼 中国人観光客 2 人逮捕 2017 年
- ④オリンピック・スポーツ：1936 年ナチス政権下のベルリンオリンピック：オリンピック聖火リレーの開始
- ⑤『わが闘争』：ヒトラー「わが闘争」を真似た T シャツが、英国 Amazon で販売される 2021 年
- ⑥『帰ってきたヒトラー』：優しいヒトラーを演じれば、大衆は「世界征服」という主張も受け入れてしまう 2016 年
- ⑦ナチス親衛隊・教育：「自分の恥だ」・・・元ナチス親衛隊員、BBC ドキュメンタリーで語る 2022 年
- ⑧アイヒマン・ミルグラム実験：指示されると責任を感じない 2016 年
- ⑨優生学思想・T4 作戦：NHK アーカイブス 03 “障害者は生きる価値なし”

上記 9 つの観点や『WEB・ニュース記事』から調べる活動を設定することで、「ナチズム」が過去の話ではなく、現代にも様々な課題を遺していることに気づくことができる。グループで調べる際には、田野（2020）のコラムなどを参考資料として配布した。次頁【図 4】はグループで作成するエキスパート資料フォーマットである。

#### 【4 時間目】

1～3 時間目までの OPP シートに「なぜナチ党、ヒトラーが力を持ったのか」や「ヒトラーは国民をどうみていたのか」のような疑問・問いが多くあった。生徒が記述した疑問・問いを回収しつつ、本質的な問いを考えられるような問いで、授業を構成した。問いは以下の通りである。

- ・なぜヒトラーは権力を握ることができたのか。
- ・ナチズムとは何か。
- ・民族共同体とは何か？ [資料読み取り]
- ・ヒトラーは大衆をどのように捉えていたのか。【資料：ヒトラー『わが闘争』より大衆に関する記述を引用】
- ・ナチスは「良いこと」もしたのか？（例）家族政策から考える。 [資料読み取り] 【資料：田野・小野寺（2023）はじめに 7-8 頁を引用】

| エキスパート 班 メンバー：                                                                |                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 【WEB記事、ニュース等】                                                                 | 【この事例を知ったうえで、ヒトラーやナチスについて、歴史的な経緯・背景を踏まえて議論したい。必要な情報を収集しよう。】 |
| 【「ナチスは良いこともした」という発言に対して、どのような向き合い方をする必要があると思いますか。上記のようなことが起きた問題の核心を踏まえて考えよう。】 | 【【メモ】「歴史に善悪を持ち込むな」という発言は、どの程度妥当か。」という本質的な問いに対するアイデアを書き出そう。】 |

【図4：エキスパート資料フォーマット】

## 4章 考察

本章では、生徒のOPPシーのト記述や単元終了後に実施したアンケート結果から、本実践を通して生徒がどのような知識を構成し、学びを得たのか、また歴史を学ぶ意義についてどのように考えたのかIB型学習指導案の効果について考察する。

### 4-1 OPPシートから見取る学びの変容

まずは、生徒のOPPシートからみてみたい。

【生徒A（評価S）のOPPシートより一部抜粋】

#### 単元前

あまり妥当ではない。善悪を持ち込まなければ説明できないようなことも出てくると思う。

#### 単元中

【1】…ナチ政権が後半になるにつれて戦争に参戦したりして政権が崩壊していったのかなと思った。

【2】ヒトラーが政権を握っていた時代の動作が現在の様々な国で禁止されていて、過去のことは過去で終わりじゃなくて今も続いていることがわかった。…

【3】9つの事例は全部バラバラだけど少しずつつながっているところがあって面白いと思った。子供にまでヒトラーの思想の影響があったことに驚いた。…

【4】最初に家族政策を見た時はいい制度だなと思ったけど対象者がとても少なかったり、同時に行われていた政策が厳しかったり、結果的に良いとは言えない政策であり、ひとつの物事だけを見るのではなく、その背景や関わっていた人のこととかも知るのが大切だと思った。

#### 単元後

「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言は妥当である。なぜなら、歴史に善悪を持ち込んでしまうと、良い部分だけ、悪い部分だけを見て考えてしまうことが多くなると思うからだ。例えば、ナチスはホロコーストを行い、ユダヤ人約600万人を虐殺した。障害者の処罰から始まり、ユダヤ人を迫害した。これだけを見て、善悪を持ち込めばほとんどの人が悪だとするだろう。そしてナチスの悪いところばかりを探して、洗脳をした、優生学的思想を広めた、だからナチスは悪い、ヒトラー

は悪い人などの印象ができてしまう。だが、もしかしたらこれらを行った背景や経緯には何か国民のためを思った善とされることだったかもしれないが悪という印象がある以上調べようとしなければいけない。

一方で民族共同体という概念によって多くの人に支持されたナチズムの家族政策だけを見ればとても良い制度で善とする人が多いだろう。そして、ナチスは経済を回復させた、労働者の味方だったなどナチスは良い印象になるかもしれない。でもその家族政策の背景には支援対象になった人はナチ党にとって政治的に信用でき、人種的に問題がなく、遺伝的に健康で、反社会的でもない人という限られた国民だけだった。

一度ついた印象や偏見はなかなか変わらず、歴史に善悪を持ち込むと主観的に物事を判断してしまうことに繋がってしまうと思うので、私は「歴史に善悪を持ち込むべきではない」という発言は妥当であると考える。

生徒Aの単元前の記述と比べて、単元後は問いへのアプローチとして、具体例が提示されており、その内容は【3・4時間目】での学びが活用されていることが分かる。特に、【3時間目】には、他グループの発表内容を個々の事例としてではなく、関連性を見いだしていることも分かる。生徒Aは結論として、「善悪は持ち込むべきではない」という発言を妥当とし、その理由について、善悪を決めつけてしまうことに問題点があるとしている。単元前・中・後の学習の変容を見取ることで、本実践において生徒が授業の何を重要と感じ、どう解釈したのか、その変容が分かる。

生徒Aに限らず、全体的な傾向として、単元前と後で、具体的な事例を基にした詳細な考察や、「善悪を持ち込むことの是非」について多面的に捉える記述が増加した。「善悪」についての議論は単純な二元論ではなく、歴史的背景への配慮がみられるようになった。「ナチズム」に関わる具体的事例の提示していた回答が、単元前の約10%から単元後には約80%となり、多角的な視点による記述が、単元前の約20%から単元後の約70%へと上昇した（総数:80人）。

### 4-2 単元終了後レポートの分析

単元終了後レポートの分析から本実践の効果を検証する。単元目標を踏まえたルーブリック評価の①一面的な見方や言説の問題点を理解した論理的な文章構成【知・技】、②概念を活用した考察【思判表】、③史資料や他者との対話を通じた意見の再構成【主】という3点を、分析の枠組みとする。本質的な問いに対する記述のルーブリック評価の結果から確認しておきたい（ルーブリック、評価のつけ方に関しては、【表3】を参照）

結果は以下の【表 5】の通りである（総数：80 人）。

【表 5：ルーブリック評価の結果】

| 評価 | 人  |
|----|----|
| S  | 16 |
| A  | 52 |
| B  | 12 |

ルーブリックを提示したことで、多くの生徒が求められている結果を踏まえて、内容を問いと関連付けながら、記述することができたといえる。

先ほど提示した生徒 A は評価 S をつけたが、単元後の記述の下線で〈意見〉〈解釈〉〈事実〉の整理がよく整理されている。〈事実〉の面では、「民族共同体」という重要な歴史的概念を活用して説明している。この〈事実〉を問いへの根拠として、自分なりに〈解釈〉し、問いに対して妥当であると〈意見〉している。評価 S をつけた生徒は提示されている①～③の観点を踏まえて、記述することができている。S をつけた他の数名は参考資料として配布した小野寺・田野（2023）を参照しながら、歴史学者ではない一個人としての〈意見〉を述べることもできていた。

生徒の記述内容から分類すると、大きく 3 点に大別できる。それぞれの内容を考察していく。

1 点目は、本実践で多くの生徒が言及することができていた、多面的な視点についてである。

【生徒 B】評価 A  
〈全てに善悪をつけるのではなく、しっかりと事実を伝えることが大切〉  
何かに人に教えたり、するときにわかりやすく伝えるために、第三者視点から物事に善悪をつけるとわかりやすいけれど、戦争や歴史に善悪はあまり関係ないし、それを軽んじて一方的に客観的事実だけを全案だけで伝えてしまうのはダメだと思う。・・・歴史や戦争を学ぶとき、善悪だけで判断するのではなく、いろいろな視点から事実を理解することが大切だと思います。・・・一面的に見てしまうと偏りを生むため、多面から事実を伝えることが必要だと思いました。

【生徒 C】評価 A  
〈全面的に賛成し、妥当な意見〉  
ナチスがしたと言われる「良いこと」について、その行動にはプロパガンダの目的が隠されていたことなど、一部を切り取ると善行に見えても、全体を見ると裏の事情がある場合が存在する。・・・善悪をはっきり決められない中でも、多面的に物事を見ることを意識したいと考えた。

【生徒 D】評価 S  
〈歴史に善悪を持ち込むべき〉  
このように考えるのにはナチスが行った政策とその背景が関係している。・・・ナチスは一見いいことをしたように思えたが、その背景には多くの非人道的行為があった。だから今、私たちが歴史を評価し、何が正しいことかを知る必要があるため歴史に善悪を持ち込むべきであると考えた。

【生徒 E】評価 B  
〈妥当〉  
なぜならナチスドイツで最初ヒトラーは国の経済を立て直したり職を失った人たちに職を与えたりして国を

救ってドイツの国民を救ったが、その後にアウシュビッツでナチスの人々や障害者を監禁して多くの人を殺した。しかしその時のドイツ民からしたらヒトラーは国を救った人だから国民に支持をされていたし、歴史の善悪はどこの国のどこの人の目線かで 180 度変わることもあると思う・・・

生徒 B・C・D・E の記述のうち、下線で示した部分から分かる通り、多面的な視点を通じて事実を理解する姿勢が示されている。本実践においては、歴史的事象の多様性を認識し、一面的な見方を回避しようとする姿勢を多くの生徒が獲得していた。こうした記述から、歴史的事象を深く掘り下げ、多面的に評価しようとする思考力がうかがえる。

しかし、②の観点からみると、生徒 E の記述のうち太字で示した部分のように、誤った〈事実〉認識、〈解釈〉をしており、相対主義的な価値観に陥っているように考えられる記述が一部みられた。

2 点目は、現代との関連に言及した記述である。

【生徒 F】評価 S  
〈ある程度妥当ではない〉  
なぜなら善悪を持ち込むことで歴史に対しての反省点や改善点が見つかり、今の政治の最善な方法を学ぶことができると考えるからです。確かに、昔と今では社会常識や価値観が違うため今善悪を持ち込んでもあまり意味がないということも理解できるが、人は無意識のうちに善悪を持ち込み反省して改善してる物事が多いと考えます。例えば、ナチスは失業率を低下させたがその背景には本当に何もなかったのか？と考えるとそうではない。ナチスは戦争の兵士を増やすため、民族共同体＝ドイツ人ではない人を差別し戦争にいけない障がい者を迫害したり、ユダヤ人を排除したり、男性は兵士にした。つまり戦争に使えない人を排除して殺し、戦争に行ける人を兵士にすることで失業率を低くした。このような差別することや迫害すること、人を殺すこと、戦争をすることなどの歴史が悪だと考えたからこそ、今後あってはならないという今の社会常識ができた。

【生徒 G】評価 A  
〈概ね妥当〉  
歴史的事実は一つの事実で形成されるようなものではなく、幾つもの事実が重なっているものだからだ。例えば、ヒトラーが行った子育て政策は結婚に際する貸付金など現在に並ぶとも劣らないようなものだった。しかしその政策は優生学的思想に基づくものであり、この政策の裏では厳しい条件などで多くの人々が差別を受けていた。・・・  
歴史的事実について考える時、事実の背景で何がどのように繋がっていつているのかということや、様々な立場の当事者達の意見・心情を把握した上で善悪について考えるのは良いと思う。それであれば、その善悪の判断結果をもとに現代社会に活かすこともできる。

生徒 F は、「善悪を持ち込むことで歴史に対しての反省点や改善点が見つかる」としている。生徒 G は、優生学的思想に基づく政策を例に、「善悪の判断結果を現代社会に活かすことができる」と述べている。歴史に関わる事実性を単に過去の出来事とするのではなく、現代に関連付けて考えている。学習を通して歴史が現代社会の問題解決につながると思いつけている。

最後に、価値観の多様性に言及した記述である。

【生徒H】評価S  
 〈一人一人価値観は違うことを理解した上で、善悪を持ち込むことが妥当〉  
 「ナチスは良いこととした」という言葉がある。・・・ナチズムは民族共同体という国民を優先する思想を賛同していたが、その裏では健康で生産性の高いドイツ人以外は殺す、「共同体の敵」としてたくさんの人々を排除する行為をしていた。このことから、たくさんの方が殺された残酷なこととひとくくりにして良いことと主張してはいけなかった。亡くなった方のことを考え、間違いを正すためなら歴史に善悪を持ち込むことは妥当である。その一方で、一人一人の価値観や時代によっての価値観は違う。・・・  
 このことを踏まえると、歴史に善悪を持ち込むのは妥当ではない。それぞれの考えを合わせると、歴史は善悪を考えず無色透明で不可能な到達点を目指すのではなく、自分にも他人にもそれぞれの価値観があることを認めた上で、善悪を持ち込み、誤りや偏りを正していくということがベストだと考える。

【生徒I】評価A  
 〈多方面から見た視点で善悪を持ち込むべき〉  
 ・・・自分の思い込みや個人の考え方が入る可能性がある。事実などをもとにして考えることが大事。自分の考えが全てではなく、あくまでも意見の一つとして持ち込むのが妥当である。価値観や、立場によって過去を判断することには注意が必要である。一方から見るのは良くない。

生徒Hは、価値観の相対性を理解した上で、「善悪を持ち込むことは妥当である」と結論付けている。ナチスの行為を具体的に挙げながら、多様な価値観を認める視点を示しつつ、善悪を考慮した歴史的評価の重要性を強調している。生徒Iは、偏りを避けるために多面的な視点を重視している。個人の価値観に基づく判断を相対化はしつつ、相対主義に陥るのではなく、歴史との向き合い方について言及することができている。

以上、数名の生徒の記述をみてきた。全体的な傾向として、生徒が多面的な視点を養い、歴史的な事象を現代社会の課題に結びつける力を育むことができたといえる。善悪の相対性や多様な価値観への理解を通じて、生徒は歴史的思考力を高めると同時に、現代社会の問題に対して批判的かつ建設的に向き合う姿勢を示している。「ナチズム」の具体例を通じて善悪を多面的に考えた生徒たちは、歴史的な事象の複雑性を認識し、本質的な問いについて議論し、考察した。本質的には「歴史とどう向き合うのか」を考え、自分なりの〈意見〉を再構成した。

#### 4-3 【到達度チェック】の結果から

到達度チェックでは、本実践における歴史的な重要概念として、「民族共同体」と「ナチズム」に

関する簡易的な確認を行った。単元終了から1週間後、担当している2クラス(77人)で実施した。

「民族共同体」に関する正答率は7割を超え、「ナチズム」に関する正答率は2割であった。「民族共同体」については、史資料を通して包摂と排除の論理を十分に考察する活動を設定したため、効果が表れたと考えられる。対して、「ナチズム」に関する理解は十分ではなかった。その理由として内容面において、大衆の視点からの史資料の提示や多くの人々が賛同・歓呼した事実に関する資料の提示が無かったことが原因だと考えられる。

#### 4-4 【単元終了後アンケート】の結果から

単元終了後、以下3点についてアンケートを実施した(総数:77人)。

- Q1: 前回までの単元「ナチズム」を通して身についたと思う力を教えてください(記述式)  
 Q2: 前回までの単元「ナチズム」を通して、なぜ私たちは学校で歴史を学ぶと思いますか、歴史を学ぶ意義は何でしょうか(記述式)  
 Q3: どのような歴史的な見方・考え方が身に着いたと思うか(択一)(項目は高等学校学習指導要領 地理歴史編 21頁、132-133頁を参照し作成)

Q1については、ATLというリサーチスキルや社会性スキルについて言及した回答が多くみられた。

- ・様々な視点で物事を見ること。本当に正しいのか疑いながら、学ぶこと。
- ・物事を一面的に捉えず、視野を広くする力が身についたと思います。
- ・自分の感情で歴史を良いか悪いか判断するのではなく、正しい情報から判断する力が身についた。
- ・ひとつのテーマについて色々なことを調べ、他の人の意見などとも照らし合わせて結論を出す力。
- ・歴史だけど人によって考え方が異なり、様々な意見が交錯していて自分の意見をしっかり持つ力が身についたと考える。

授業者はATLを意識して指導にあたった。授業者が計画段階において、具体的なスキルを意識することで、そのスキルを意識した学習指導ができる。実際に多くの生徒は授業者が意識していたことを身に付いたと感じていることが分かる。

社会性スキルはエキスパート学習を取り入れたことで、言及する生徒が多かったと考えられる。

Q2については、回答を分析すると、主に3点に分類できる。1点目は、最も多くの生徒が言及した「視点」に関するものである。

- ・歴史を学ぶことで、たくさんの視点から物事を考えられるようになるから。
- ・同じことを繰り返さないためであり、また何が本当かわからずいろんな見方があるため事実を見極めいろんな方向から物事を考えていくため。
- ・偏見を少なくしたり、正しく物事を理解することが大事だから。

こうした記述は、本実践において「視点」を意識した学習指導を中心にした計画を練っていることから、目標と指導が一致したうえで、生徒もそれを実感していることが分かる。2 点目は、過去を教訓として生かすというものである。

・歴史は、人類が犯してきた過ちや、そこから得られた教訓。ナチズムのような悲劇を繰り返さないために、歴史から学び、未来社会をより良くするための教訓だと思ふ。  
・大きな損害・被害を生んだ歴史を学び、どうすればもう一度起こらないようにできるかを考えるため。また、良い結果を生んだ歴史を学び現代に反映することもできる。

こうした記述は、本実践で扱った内容が「ナチズム」であったからであるといえよう。二度とこのようなことを繰り返してはいけなと、多くの生徒が実感したことが分かる。

3 点目は、現代との関わりについてである。

・昔あったことを知り、現代で歴史的になにかあった人たちに失礼のないようにするため。  
・過去にあったことを客観視することで、物事の捉え方や考え方も学ぶことができる。また、現代に置き換えて考えることで生かせることがある。

こうした記述は、IB 型学習指導案から単元を設計したことの効果を示しているのではないだろうか。現在や未来に活かすことや自分との関わりについて言及していることから、歴史に関わる事実性を現代につなげようとしていることが分かる。

Q3 については、結果は【表 6】の通りである。

【表 6：Q3 身に付いた歴史的な見方・考え方】

| 歴史的な見方・考え方 項目          | 人  |
|------------------------|----|
| ①なぜそうなったのか？ 因果関係に注目    | 28 |
| ②いつ起こったのか？ 時期や年代に注目    | 3  |
| ③何が変わったのか？ 変化に注目       | 3  |
| ④どこで起きたのか？ 位置や空間に注目    | 0  |
| ⑤どのような価値があるのか？ 意義を考察   | 21 |
| ⑥類似点・相違点は何か？ 複数の事象を比較  | 2  |
| ⑦今とのつながりは何か？ 現代との関係を考察 | 14 |
| ⑧私とのつながりは何か？ 自己との関連    | 3  |
| ⑨未来はどうなるか？ 今後の展望       | 3  |

本実践においては、特に⑤と⑦を意識して計画した（本質的な問いの考察を通して歴史的意義を考察、現代からみた過去との向き合い方）。実際に多くの生徒は⑤と⑦が身に付いたとしている。ねらいと一致した効果の実感があることが分かる。最多の回答となったのは①であった。この結果は、問い・発問を軸にした授業構成をしていたからだと考えられる。生徒から出てきた疑問・問いを回収しつつ、エキスパート資料やワークシートに、問いを必ず記述していたことも生徒に因果関係に着目させることになった 1 つの要因であると考え

られる。また、【4 時間目】までは授業者からの知識の伝達場面が限られていたため、生徒は自然と「なぜ」を意識していったと考えられる。

#### 4-5 【2 学期終了後アンケート】の結果から

本研究の一環ではないが、12 月末に行ったアンケートから 1 点考察したい。アンケートは、2 学期の授業で①おもしろかった授業と②分かりにくい、おもしろくなかった授業、③全体の感想の 3 点を聞いた。①②どちらも「ナチズム」学習を選んだ生徒が最多となった。筆者の担当するクラスでは、①24 人、②21 人だった（総数：75 人）。①の理由では、授業の進め方に言及したものが多かった。対して、②の理由としては、内容面、資料の読み取りの難しさについて言及した回答が 21 人中 17 人であった。授業資料や情報の精選が課題となった。これは【2・3 時間目】で扱った項目が多かったこと、【4 時間目】の発問・問いが 5 つと多かったことが原因だと考えられる。

①②で選択していた生徒の③感想では、高校入学前までの歴史学習との違いに言及した回答が目立った。①の生徒は肯定的な回答だったが、②の生徒は以下のような感想が目立った。

・語句の暗記などが少ないから、中学で感じていた社会の面白みが減った。もっと覚えることが増えればもっとたくさんを知ることができるとおもう。  
・歴史は自分は苦手で理解するのが難しかったけど穴埋めなどのやり方は覚えやすくて良かった。

中村（2016：85）は「正答を求める傾向が強く、また現在の基準で歴史的事象を価値判断しがちな学習者がおのずと質の高い歴史像を構築できるわけではない」と述べる。②で「ナチズム」を選んだ生徒は、全員ではないが、誤った〈解釈〉をした記述が目立った。構成主義の知識観に基づいた本実践においては、前提の知識観や歴史学習の意義などを伝える点で課題があったといえる。

## 5 章 成果と課題

本稿では、IB 型学習指導案に基づき、本質的な問いを議論する単元「ナチズム」を設計し、実践した結果、生徒が歴史を学ぶ意義をいかに意義付けるのかについて検討した。

目標面からみると、IB 型学習指導案という型から設定したことで、現代的な視点を踏まえた学習を通して、生徒は歴史を学ぶ意義を実感すること

ができたといえる。特に、単元の概念として設定した「視点」を意識した生徒が多数いたため、目標・指導と生徒の実感が一致していることが分かった。内容面においても、目標からの逆向き設計によって、内容のある程度精選したうえで、獲得させたいポイントを踏まえた指導を可能とすることができたといえる。つまり、IB型学習指導案の活用が、歴史総合の理念の実現には、ある程度の効果が見込めるといえる。

しかし、課題として主に2点あげられる。1点目は、内容面と方法面での課題である。〈事実〉誤認の記述（「経済効果をもたらした」）や〈解釈〉で歴史的文脈を無視した記述（「失業政策は良いものだった」や「ヒトラーに賛同する人が多くいたから『正しい』」など）も一定数みられた。講義による知識の伝達の場面が少ない分、情報の精選と提示に関する改善が必要となる。2点目は、本実践で扱った本質的な問いを、他の歴史事例でも扱えなかったことである。渡部（2020）が指摘するように、カリキュラム全体において、体系的な単元デザインが重要となる。例えば、本実践後に「第二次世界大戦と日本」の主題のもと、戦時下での日本の対外政策や各国の原爆投下に対する歴史認識を学び、同じ本質的な問いを考察する活動が考えられる。他の歴史事例と比較することで、問いの妥当性について検討することができる。

今後の展望として、IB型学習指導案に社会科における学力像を組み込み、ATLとの関連を考察することや社会科教育の成果も踏まえた実践を増やすことが重要となる。さらにいえば、教科横断的な視点から、学際的に単元を構想することが重要となる。それにより、IB型学習指導案をより効果的に活用することにつながるのである。

### 【註】

1 「事実性」としているのは、歴史学は「事実」のみならず、当時の人びとがどう思っていたかという「心性」のような問題も扱うためである（小野寺・田野、2023）。  
2 「歴史的思考力」と「歴史的な見方・考え方」の具体的な内容は、議論が深められている。大杉・石上（2021）は、共通する育成すべき能力として、「歴史事象を異なる時代に活用・転移させる力」や「歴史の変化を把握し、関連付ける力」など5つを挙げている（大杉鏡康・石上靖芳（2021）「中学校社会科における歴史的思考力の育成に関する検討—江戸時代の幕政改革に歴史的な見方・考え方を働かせる単元開発」『静岡大学教育実践総合センター紀要』31巻）。

本稿においては、歴史的な見方・考え方は歴史的思考力と通じるものであるという認識のうえで論じる

3 渡部（2017）はニューマンの真正の学びの議論を前提としている。ウィギンズらとニューマンを比較し、ニューマンが（社会科）教育の目的を市民性＝「公共的な出来事について開かれた批判的な言説を促していくこと」に求めていることを重視している。ニューマンの真正の学び「①知識の構築、②鍛錬された探究、③学校外での価値」の中でも、特に③に拘ることを指摘している。

4 一枚ポートフォリオ評価（One Page Portfolio Assessment: OPPA）とは学習者が一枚の用紙（OPPシート）の中に学習前・中・後の履歴として記録し、その全体を学習者自身が自己評価する方法のことである（堀哲夫（2019）『新訂 一枚ポートフォリオ評価』東洋館出版社）。

5 ファシズムを巡っては、田野（2020）が指摘するように、様々な議論が行われ、概念の精緻化により代表的事例であるはずの「ナチズム」が「ファシズム」にあてはまらないということがおこっている。

### 【引用・主要参考文献】

- 小野寺拓也・田野大輔（2023）『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか』岩波書店  
角田将士（2020）『「民主政治の見方・考え方」の成長をめざす日本史単元開発—高等学校地理歴史科『歴史総合』単元『政党政治の挫折』—』『立命館教職教育研究』第7号  
角田将士（2022）『NG公式から導く 社会科授業の新公式』明治図書  
高大連携歴史教育研究会 2024 年（令和6年）7月28日「歴史総合の授業についての実態調査」報告  
佐藤卓己（2015）『ヒトラーの呪縛（上）—日本ナチカル研究所序説』中央公論新社  
武井彩佳（2021）『歴史修正主義 ヒトラー賛美、ホロコースト否定論から法規制まで』中央公論新社  
武井寛太（編）（2024）『歴史総合・日本史探究・世界史探究の授業を実践するためのヒント ジグソー法による指導と評価の一体化』山川出版社  
田野大輔（2020）『ファシズムの教室 なぜ集団は暴走するのか』大月書店  
中村洋樹（2016）「真正の歴史学習における歴史学的概念の学習原理」『日本教科教育学会誌』第39巻第1号  
中村洋樹（2021）「生徒と歴史教育との学習レリバンス構築のための主題的歴史カリキュラムの構成—“Teaching U.S. History Thematically”を手がかりにして—」『四天王寺大学紀要』第69号  
フレッド・M・ニューマン（著）／渡部竜也・堀田論（訳）（2017）『真正の学び／学力 質の高い知を巡る学校再建』春風社  
御手洗明佳・赤塚祐哉・井上志音（2023）『国際バカロレア教育に学ぶ授業改善 資質・能力を育む学習指導案のつくり方』北大路書房  
森分孝治（1978）『社会科授業構成の理論と方法』明治図書  
森分孝治（2001）「市民的資質育成における社会科教育—合理的意思決定—」『社会系教科教育学研究』第13号  
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』東洋館出版社  
リン・ハント（著）／長谷川貴彦（訳）（2019）『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店  
渡部竜也（2019）『Doing History：歴史で私たちは何ができるか？』清水書院  
渡部竜也・井手口泰典（2020）『社会科授業づくりの理論と方法 本質的な問いを活かした科学的探求学習』明治図書  
G・ウィギンズ、J・マクタイ（著）／西岡加名恵（訳）（2012）『理解をもたらすカリキュラム設計—「逆向き設計」の理論と方法—』日本標準  
H・リン・エリクソン、ロイス・A・ランニング、レイチェル・フレンチ（著）／遠藤みゆき、ベアード真理子（訳）（2020）『思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践—不確実な時代を生き抜く力—』北大路書房